

実証概要

Demonstration overview

西宮市 防災危機管理課

若者の防災力アップへ！たくさん作った防災動画を届けたい！

課題

- ・ 防災意識が低い若年層へ向けた効果的な啓発を行い、地域の防災力をアップさせたい。
- ・ 今までの啓発活動の効果が不明瞭であり、若年層に届いているかわからない。

実証内容

- ・ 若年層の利用率が高いTikTokで動画を配信
- ・ 動画を学生と共同制作

採択企業

瀬戸内サニー株式会社



bousaischool 防災の学校

フォロー

メッセージ

🔗

...

0 フォロー中 62 フォロワー 4228 いいね

2025年1月17日で
阪神・淡路大震災から30年。

TikTokで学ぶ「防災の学校」
が開校👏👏



実績・成果

撮影会後のアンケートで、参加した学生の85.7%が「満足」と回答
総再生回数は1週間で10万再生（多いものでは1本で8.6万再生）を超えた

解決したい課題

若年層の防災意識向上

大規模災害から身を守るためには自らが災害に備えてもらう必要がある。

西宮市では、市民向けの防災訓練や出前講座を行っているが、参加者が中高年に偏っている。また、市民意識調査で、防災活動に取り組んでいるかを尋ねたところ、特に20代と30代の取り組み率が低い傾向にある。

特に防災意識が低い若年層・働き世代へ向けた効果的な啓発を行い、地域の防災力をアップさせたい。

防災啓発効果の見える化

市民向けに防災啓発のイベントを開催したり、YouTubeに動画を投稿しているが、効果が不明。若年層に十分に届いていないのではないか。防災啓発効果の見える化を図りたい。



実証内容

- ① 若年層の利用率が高い TikTokで動画を配信
⇒ 今まで防災に関心が薄かった層にアプローチ
- ② SNSに関する勉強会／動画を学生と共同制作
⇒ 職員の情報発信スキルの向上 / 参加学生の学びにつながる

勉強会 (合計2回)

YouTubeやTikTokのインサイト分析、SNS広報戦略を学ぶ勉強会を開催しました。



動画企画/撮影実践

実際に企画から撮影までを西宮市職員や関西学院大学生が実施。実践を行いました。



TikTokアカウント運用

実際に最終的には瀬戸内サニー株式会社の運用ノウハウをもとに動画編集等仕上げを行い、特集アカウントを開設して阪神淡路大震災30年を機とした特集情報発信を行いました。



実証に使用したサービス・システム

TikTokにて、特設アカウント「防災の学校」開設

阪神・淡路大震災の記憶・教訓を次世代に引き継ぐためのインタビュー動画、楽しく防災について知ってもらう防災クイズなどのショートムービー合計12本を配信。



bousaischool 防災の学校

フォロー

メッセージ



0 フォロー中 62 フォロワー 4228 いいね

2025年1月17日で
阪神・淡路大震災から30年。

TikTokで学ぶ「防災の学校」
が開校 🌟🌟



@bousaischool

なぜTikTokなのか？

- TikTokは若年層で利用率の高い動画共有サービス(10~20代の視聴率60%)
- Youtubeがフォロワーや広告の多いチャンネルが優先されやすいのと異なり、フォロワー数が少なくても良いコンテンツであれば見てもらいやすくなっている。
- TikTokではAI機能が発展し、誹謗中傷コメントへのフィルタリング機能が強化されており、健全な運用がしやすくなっている。

KGI・KPI、目標など

本事業において、一方通行な情報発信ではなく、**双方向である情報発信が、コメント等でどのような反響が生まれるか**を検証した。

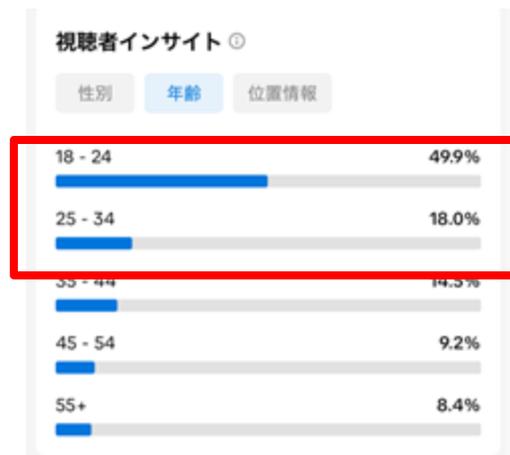
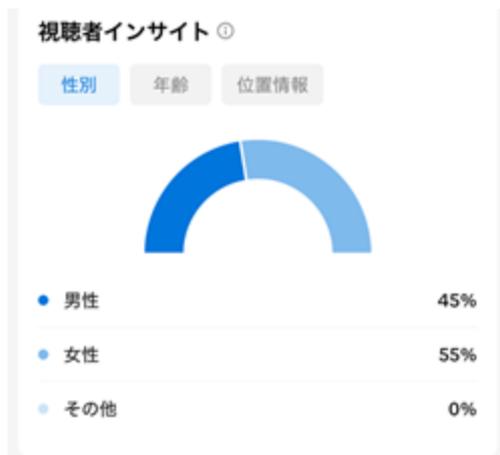
また若者世代の再生回数やコメント数といった定量評価的反響だけでなく、定性評価的反響としての行動変容に繋がるようなコメント内容の創出を図った。



実証結果

結果として、総再生回数は1週間で10万再生(多いものでは1本で8.6万再生)を超え、そのうち18~34歳世代が視聴者のうち約70%を占める結果となりました。特に年配の方の震災時のストーリーに対しては多くの共感コメントが集まりました。

総再生回数	総いいね数	フォロワー数
約124,000	4354	66



Youtube「にしのみや防災チャンネル」の防災女子の動画でも、65歳以上が62%を占めている。「Youtubeでリーチできていない層(若者)にTiktokでリーチできている」という仮説が正しかったと推察できる。

Tiktok視聴者の反応

防災に関するクイズ動画に対して、自分で調べた内容をコメントでシェアするなど防災に関する学び意欲の向上。また情報のファクトチェック等を行い、正しい情報をシェアしようという行動も伺えた。加えて、こういった動画をもっと撮ってほしいというリクエストも届いた。

<p>● そんな地震起こるの？ 4日前 返信 0</p>	<p>● ゆうれん 十センチでも人は死ぬからね 1日前 返信 0</p>	<p>● mikannS25 おすすめもっとこういう動画撮ってください 参考になります！ 1日前 返信 0</p>	<p>● 14Potecl でもよく考えたら世界で500回はまあやばいな 3日前 返信 0</p>
<p>● 14Potecl 毎日絶対1回は起きてるよ。 4日前 返信 0</p>	<p>● 日本って、人間が気づかないくらい小さい地震が定期的に起きてるって言ってたなあ 3日前 返信 0</p>	<p>● みる なんで窓の近くなんやろ...割れたりしたら危ないんじゃない？ 4日前 返信 17</p>	<p>● Yuya@I.Like/バスケ じゃあ4日で2000回地震起こるやん笑 2日前 返信 0</p>
<p>● "Rui" 1日に4回くらいは起きるよね 3日前 返信 0</p>	<p>● 早希子 窓を開けて逃げるのでは？ 2日前 返信 0</p>	<p>● そら その近くいたらダメな方を選べって問題です！ 4日前 返信 37</p>	<p>● ふるーじん 寝てる時に地震が起こったので身動きができず寝ぼけと動揺してるので落ち着く事だけを考えてました 家が倒れなかったから出来たことですが... 1週間前 返信</p>
<p>● 編集下手な人 もっとあるよ。大体500回くらいだよ 3日前 返信 0</p>	<p>● kaede 割れて破片などが散乱するので危険ですよ！ 2日前 返信 0</p>	<p>● みる そういうことでしたね！寝ぼけながら見ている問題ちゃんと聞いてなかったです 3日前 返信 1</p>	<p>● あき 阪神淡路大震災後はバジャマ着なくなりました。いつも逃げられるように冬ならスエットなど来て寝ます。割れ物で怪我をしないよう靴などの履き物をベッド下に置いてますし、ヘルメットも一緒に置くか厚手の毛糸帽を置くのもよし。コートも倒に掛けてます。 鍵や財布、携帯電話は靴に入れ側に置き、最低限の水やカロリーメイトみたいな物とタオルカッパを入れてます。 充電器はソーラーみたいなのを準備しておくといいたい。</p>
<p>● "Rui" 日本だよ？ 3日前 返信 0</p>	<p>● こんちゃま ドアも一緒に笑う 1日前 返信 0</p>	<p>● わか 避けるべき場所でしょ？ 2日前 返信 1</p>	<p>● あき 阪神淡路大震災後はバジャマ着なくなりました。いつも逃げられるように冬ならスエットなど来て寝ます。割れ物で怪我をしないよう靴などの履き物をベッド下に置いてますし、ヘルメットも一緒に置くか厚手の毛糸帽を置くのもよし。コートも倒に掛けてます。 鍵や財布、携帯電話は靴に入れ側に置き、最低限の水やカロリーメイトみたいな物とタオルカッパを入れてます。 充電器はソーラーみたいなのを準備しておくといいたい。</p>
<p>● 編集下手な人 調べてみて 3日前 返信 1</p>	<p>● マーツ 俺は総登半島地震でスマホと車のカギだけ持って逃げた。食べ物は何とかなる。 1週間前 返信 3</p>	<p>● みる すみません勘違いしていました！見る時寝ぼけていて恥ずかしいです... 2日前 返信 0</p>	<p>● あき 阪神淡路大震災後はバジャマ着なくなりました。いつも逃げられるように冬ならスエットなど来て寝ます。割れ物で怪我をしないよう靴などの履き物をベッド下に置いてますし、ヘルメットも一緒に置くか厚手の毛糸帽を置くのもよし。コートも倒に掛けてます。 鍵や財布、携帯電話は靴に入れ側に置き、最低限の水やカロリーメイトみたいな物とタオルカッパを入れてます。 充電器はソーラーみたいなのを準備しておくといいたい。</p>

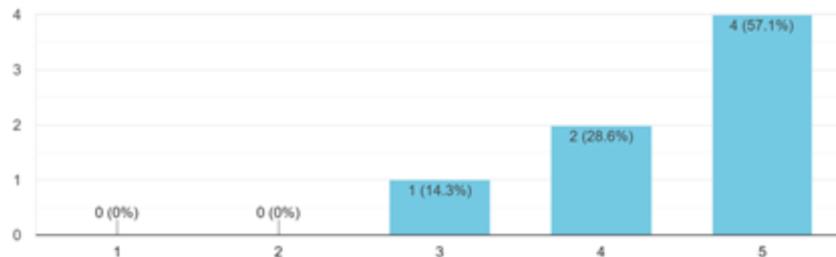
撮影会参加者の反応

関西学院大学での撮影会に参加した学生にアンケートを行ったところ

満足度4以上の学生が 85.7%
 また参加したいと答えた学生が57.1%
 回答者全員が「周りに勧めたい」と思っている
 (いずれも5段階評価で、最高が5)

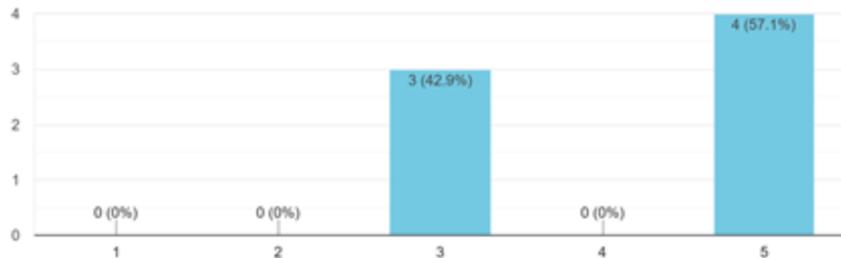
撮影会の総合的な満足度を教えてください

7件の回答



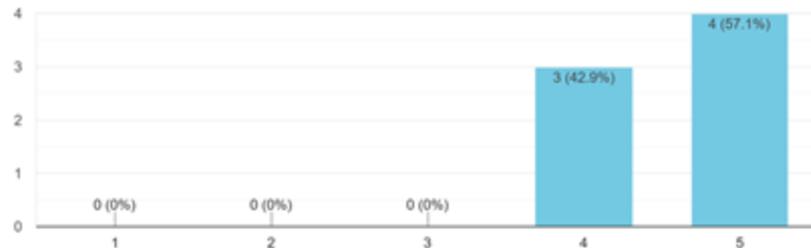
今回のような取り組み（動画制作）にまた参加したいと思いますか？

7件の回答



今回のような取り組みを周りに勧めたいと思いますか？

7件の回答



今後の展開

今回の実証により、若者への啓発活動にはTikTokが有効であることが明らかになった。現在のメディアでそこまでの影響力を持つものはないので、行政としてもリスクを考慮しながら活用していきたい。

また、若者が動画の制作に参加することが若者自身の学びにつながるということがわかったので、今後も市の若者を巻き込みながら、活動を続けていきたい。

継続的に発信するために

- 大学、ボランティア団体、近隣の自治体、企業との連携を模索
- 防災の日や1月17日のような特定のタイミングで特集を組む

より若者に興味を持ってもらうために

- 若者が主体的に制作に関与する仕組みを強化し、瀬戸内サニーが企画・編集を支援
- インタビューやクイズなど、双方向性のあるコンテンツを作成
- あえて情報量を減らすことで、視聴者に考えることを促す
- 若者に好まれるトーン&マナーで発信する